



此山集
廿八



利 5
1979
7



1979
7

花山集秋才一目錄



初秋
秋の柳



七夕

生見
蓮之飯
指

躍

夕月

秋蟬

一葉

桐

魂系

燈籠
付記

相撲

秋螢

稻書

枯納涼
露
花い糸

秋扇
橙
鶯頭記

崑山集卷才七

秋部

ト
初秋

涼さ此はや秋の風少くは
秋来ぬとをふれ秋の文
涼ささ風のりりるるさ
筆ささて吹やる秋をの口
杖はくや鳴吹秋の立さささ
七月の地獄の釜やあき此は

古後任 涼水
奥の市
友三
古也
羽列 友三
友三

蓮の葉をくわへて又る葉の素秋葉

長頸丸

一葉

相本をちと枯くせ此葉葉
なましくや毎ふ相のりんそ
双六の葉まきりふ秋の色
枯きぬくふ相みとらふ葉葉
一葉や夏とい秋へと一
ひちと一母出る秋の葉葉

中島内務

貞宣

葉色正候

元貞

伊酌山名ぬき本をくわく秋

生田内務
左勝

追若

彼岸ふちのくやうふ玉柳
一葉ちち八つふ七ついろ秋
一葉とぬえ秋くらも同る
風舟舟山くくく此一葉か
楓あるや一葉の辺秋の山
一葉の舟は帆かしや秋の色

江戸内務

好永

経念

秋意

友若

貞則

大徳

好道

長頸丸

同

一葉もやあつ木のりあは此

日

秋柳

秋を秋柳の氣力落葉か

金又かきこむ柳や親世も

秋風かきこむ親世の柳か

左後任 安明

あふちし思ひまふ魚けを柳

良和

水か親か浦もあつさいのか柳

日

一葉ちし浪風や強盗柳原

左後 貞利

赤色やよきこむまうは朱柳

左後 貞治

病を病かせと此深飯の朱柳

平柳法 良次

秋の風ハ髪切中りうまやうま

左後 玄茂

枝るうちら柳葉やりや元舟

宗清

柳髪つまふるふと自剃

勝之

下子の鞠一葉とつる柳か

長光

桐

葉はちれとあぬ鳳凰や

追善

桐乃葉のちりちりさうじ本葉

桐の葉も波かうく井戸の

井はあめあつこころ桐の一葉

社きぬと目よそくまら此一葉

桐流かの一葉の本を此ら一葉

風凰を社桐葉の刃をさす

桐の葉のちりちりさうじ

大船とアラン桐の一葉か

セタ

くらに葉あけセタはせん

月の舟セタみせあきの川

うらうらと織や紗ひの糸合

ひく牛の目もまきんりり二星

久寝とも星や紗ひの眼ん

天川やうれさく紗と一葉

宗畔

本路

会安

正也

但英

任田

政信

定春

かきまの橋と蔭絵の少月

宗時

織姫やうじふらりあふお七夕

西武

七夕の寝物指やまきやうせん

毎夜

双六の逢ってらちれ二つ星

友三

七のまんが男のうら二つ星

定規

男七夕肌ゆらきとたれ子い

清之

糸や海ぬりけまの井の星

日

老星いと背玉志のうらな

日

二枚浴衣をこりりや二つ星

合巾

あかりと七寶の枕あうく

元信

こしらふらせせさんのかげ

正武

七せきかたきそ一まきれあふ

中野

盆敷の箱と二つれ目り

中野

七夕のういせいのしむいせ

吉也

流のまを一本お口の星目針

定規

新うらと水あまるこれたう

定規

七夕のちの文月やかくきんか

織女のきりりささいささうとせ

七夕は一とさいのこえりゆ

七夕のわいの使や七度半

七夕さのくひるれと

織女らまきのえ移ともちさう

文月の星わいさやう此難書

わけとさやうのつらねたさ

七夕の糸川そのやまのび星

鶉の眼はたまのゆさのけり

因星さると背逢うけすの性

光らとこの夜通姫のわたさ

さうさうやおみ七夕の何事

七夕の好約は文月つるゆ

七夕のまの何とるわら蒲萄外

織女の中合人なれやよの月

口政 定利

夜 夕新

日

持保

糸江 糸吉

中河 永吉

利政

後列 小次 吹白

元晴

桑中川 多治

長光

同

日

彦星やつらつら娘あつらせ夕
こゆらちら星や七夕の孫子
彦ととまうけらる年の七
月 月

夕女

約くかんなわつ彦がけの書
うゆとわの七夕書れたらひ
七夕の七献まづま一献さけ
思ふ抱くと七夕は去らわ
七夕やゆえそつらつらひと
こ

魂糸

袖しらわがらりと露れ玉糸
あふひるさころい糸玉糸
灯籠のゆきを夜光れ玉糸
茶の湯とわらわ糸玉の糸
思ひおとほや先目の玉糸
よりくまきの糸玉糸

解るる杖の目くらむ玉の目

道の美やまき聖具のたな

しけれ玉をすのき糸たう

るまきとまみだるるや糸たう

水びらん何らるるや玉たう

わきしけく何そや糸た玉糸

みそ糸や野あうる糸の玉糸

涙めくまきつる糸や神志たう

老の跡をみればたう糸うか

焼香をすもや白ひの玉たう

法のたのむに玉まきつる

あみおろしあや肩衣をたう

聖具へ取ら文持のたう糸

道に食つたうの玉糸たう

あみ鉄鬼を棚へせうの玉

鉄美産も来運るるの玉

季吟

正徳

林麻

雲衣

未得

純不

貞好

貞利

元晴

政信

如獲

正興

素翁

也直

聖具のよき味をらん文月并
 つまね神やこんく菊の玉系
 思ひのよきわいりく魚の玉系
 百子なるけり名方そまきり
 為るけり聖具棚や玉の床
 俄鬼の目み水まねぬ魚はひ懸
 西じきみすりつうく魚はうり
 地獄の鬼やあますらぬぬぬ

江戶桂 忠良

尾崎 吾盛

久野 久野

森助 繁社

出雲 出雲

東の御門跡より魚の江

増してちりきりく魚はまじり
 魚の目や似お花くは釜の
 魚は抱きれりくまきり蓮系
 蓮のきりや生具をのからぬ

生具玉 付 蓮飯 拾遺

さし世家おとあつり魚は祝儀
 親おとあつり蓮の飯といひ

植田 道春

道春

蓮の葉をけりつゝさるれや桂

さし結の尾ハ結や敬の矢は結

盆舟せらるや寶珠生つて玉

よとれてやあはれくいとあくと生

草花飯舟らうらさる蠅や云賦縁

燈籠付 花火

汎るりて梵天まきく六揚灯籠

花燈籠のらうらひけの比花

星のわくろそを教ふと心灯籠

名字とみく作つととくわ上燈籠

送り火とるのよととふととと

うらぬぬののののののののの

竹の舟を是を生つる花火

是や此火角とみく花火

舟舟のけしたるをの柱を新灯籠

うらぬのふらちけの上灯籠

奥西

友三

尾洲大の舟

盛次

政成

江戸舟舟舟

生威

守榮

利政

元祝

定之

後成

孝之

清平

安利

長宅

長徳

円

躍

夕より皆おきまぬや本當知
 約のそよ月色の夜まれば流知
 手色足もも孫遊目のおまゆ
 取被うちしておろわかんれ
 右被ひてこまよの念佛踊
 うし中へちおまよまあるお
 本當踊杖をるまれば流こま

八よりとおろまかもし也十六夜
 ちかくの榮葉ん様までや本當
 色まひくまくら此まの踊流
 初八越四十一おまよまある
 舟のまよおまよの所のおまよ
 麻衣や少り袖少して本當踊
 妙ち少りまらひ遊目になりお
 橋をくそ舟まからるわきま踊

中々廻らぬやきり本堂おきり
るり物りも小町おきりや拍子
きりえれむ様おきりやたも
波り拍子おきりやけに本堂踊
後の世もわらぬ目におきりか
おきりや七報判友本堂おきり

くらせくを報子のひら本堂
新あきさやのひらりんの味

くらせくを報子のひら本堂
踊目の踊やあきさやをくらせく
うまふ浮少らわあきさや此過踊
人のあきさやせん那集の踊
俺ぬきともあきさや小町踊
あきさやのひらりや本堂踊
吹笛のゆひらりや拍子か
本堂踊らわらぬ巴のさきか

奥

友三

あきさや

正知

任事

政能

あきさや

正利

定吉

あき

貞好

あきさや

感如

あきさや

あき

切也之り子舞子踊やゆん坊
水邊の踊ハ舞宮存々
みろく宮座もや新教意中
ウまんとの文ハ新書の本常踊
これより其のさまぬ本常
舞後布や美く志の
もてくらや拍子の流は本常
左殿といふは流子もおる本常

舞坂より南座

舞坂や流子の冠者本常踊
只社をれきあよハ十七名は
舞ハ初はゆんけり月わ
もくそ舞はと舞色ハ分本常
舞ハ流き小町踊や修治踊
是拍子舞之月舞さくらに
小町踊坊よりとそりや小町の

江戸色了去

祐政

五段 之舞

喜 苗心

橋山

保左

利政

廣常

勝長

尾野 綱生

年

林麻

油乃

利政

侍奇

長樂

こ

こ

地味名も色おのく小町踊水
百舟やう蛇り色龜のさき家
るらゆき志踊太鼓の龜風

相撲

矢とつひくは遊河まやうけ
さきひねれねえのりらり
羽せしをさきしれおさきひ
足とんそら小靴をさきし

情磨かけふそらや志の勝
神のおくらをかうつさ此お稽小
そりゆららや相撲の川出まの
勢のまてさくおえ忍も大相
のうまから相撲へまれのつさ
むさ成流を相撲のまのり水
さきひそら名を年中の事
ゆき物らさそらつひ乃時流

高島

良勝

正実

利政

常久

貞宣

吉也

友宣

たつあしとそら流るあまらつひの

三麻元晴

基此子やおこうひらせまお撲

山重宗

下帯のちも赤すち実流すし

山保友

下帯とあうくや井も此置お撲

信同

鐘と月の表お撲の手やあり

信政信

んしわ道はお撲いつらまけを

月

るけおやとん福ん福小緒お撲

那永

足留もや元福の足すあのみ文字

林麻

多成もらとつくと足元ますし

三麻巾包

山雀のあうくんとるけのね撲

三麻夕翁

ちんたの名系ハ徳の流き流まふ

三麻浦成

鬼もとくぬや六道の辻お撲

七乳丸

文母

やま此神のからとわ子話は文母よ

かろりさの等母を流しし毎月よ

文母の八や前のかうしこ

夕月を秘ぬ人やわさめら
山くち夕月入家少とこ家
是を六新造初らゆん新の月
文月やむくまきくそみち平地
ちくたの隅固の魚の月とん
あけくらみの足めくさ月よ
丸く赤く是そは来れ魚舟
ち雨の双紙わくひの文月よ

文月の新筆おかし水の西
こさくちりまひくちわ文
去文月と

二河あちやあ門池のお文月
夏よりてくらも眺れ夕月夜
文月とうつとく池の道花集
二つあち文月をばやみりあ
文月とうつとくは紙池川

天蓬此子後るれや文月夜
文月や西よの月より来りり
あわらる親や清室の文月夜
文月や書けとやふ書かられ
友のいぬら物や垂多月夜
物書れ玉書りやや多月夜
今らこい為時やう、文月か

六条やう蘭のき花は

あんなんの花を穿くや多月
書るうてけさのき物文月
結をけさくら物紙の多月
おほめや子の舞は文月
一葉とともや物月乃わ
野ふやんともや文月の虫

秋堂

小車の花やうらうら

和

伊員

直昌

英

清成

久員

成

月

不

月

物

長

日

秋の丁の面をよめはしの花量
秋の月を紙巻たりとてさるとは
くしむの魂まらりし時ふもふ
あゆそひくはかりの螢や上灯籠
長鹿もりや秋のそらふか
あまのききぬ螢や佛の火
月影ゆまらふ螢のひふ事
螢出り花燈の火おろくわ

新法各

安の

周知

孝翁

推山

保か

素位

三秋

石野

正次

徳の作

信次

紀別

正陳

長路

秋蟬

秋の秋の鹿まれば虫の螢の火
野原の螢をのほろひか
しの螢やこれうまてあけ灯籠
秋の月を紙巻たりとてさるとは
あゆそひくはかりの螢や上灯籠
長鹿もりや秋のそらふか
あまのききぬ螢や佛の火
月影ゆまらふ螢のひふ事
螢出り花燈の火おろくわ

守業

新法各

花翁

声やまうらみけり秋の野 玄可

稻書

稻書をきん源氏のやまのくれ

稻書ハを此らもの強や弱

稻書は月交後れらくあふ

知の雨と油らちをゆを稲坂

元の海ぬけけく稲書待秋外

稲書のうらみの波のあや

稲書此うをるりかたわらの

友をて稲書とま川賤男外

いるすふささるるる男外

秋細涼

涼めそくうふか子たかく秋の色

夏をわたり秋を此らる機園外

居るをよきす風の吹なうか

秋と夏氣のをくするわ川橋

玄可

安部

菅原

道清

中村

良勝

長翫

月

元親

高橋

涼しきふぐらう陰も枯れぬ
秋葉を推す風のちり

移列面回松平表
一之

枯庭

秋きくいの清をひらり庭に
あり涼風の庭も今や枯れ
か夏より涼み庭や趣も
秋をくくぬい庭をまじ
風吹くおき川あり此の庭に

心あり
身あり

庭おきむらじうあめ地を
あふりふん 庭のつきの庭
あて破る庭やあまれ古
秋きくいの庭の書もわく
あきあらし七月より此庭に

庭
夕
秋
表

落

草の葉乃あやまの眼玉
月影と水より玉の影

上七

風口の少さむるれや草の露
 ちんとうく露や蛭子水ふ
 露は世とあのだまつく小藤
 ちんとうかれ露のそそ露
 舟玉の二葉の上は枯る露
 山科の草木や露はわりの深
 ちんとうは露のそそ露の玉
 ちんとうは露のそそ露の玉
 ちんとうは露のそそ露の玉
 月も木も露をくまり露の
 枯の野々あまや露は死に下
 露の葛れ下露のそそ露の
 ちんとう月もくまり露の
 小車の露やかまつく眼くま
 露のあまおまきく上の小夜時
 月夜つと露あまおまきく上の
 露ちんとうのあまおまきく上の

一滴
 一石

新子雨のそんころくやけの
あゝ露と来ぬまらるわ本塔

兼松寺
法別院
寺
本塔

又の遊書ふ

吾人の舍利のうんけの神志
火のさうて目ふさう海や露の
深草の露やわねはらあめ
秋風やあふくあせの露ら
木賊ぬいさうてけくさあは玉

次良
兼松寺
女貞
教
永在
積屋
浄珠

ちさり函にささる露の死
露あけさ野寺此道や救珠
のりささる此露や標つそ福海

正伯
長
同

檜

あらしふ北星らう露や牽牛
朝貝や目まけぬあつたの契
長巻うや新教あはる宿の庭
船うかも去らり出る目まどお

一目此堂のまじりく横たひ
期款や色もさうしつ毛物もさ
わさ息やあつとあつと花の
約款と長衣のなめつけ田ふ
わさふぬぬ霜より朝のあか
約款やしげー男此弁のつら
横や目くぬわつたる花此色
つらばよや美もさうの牽牛

尾外名は徳田

長治

長治

定房

長成

文一

ひるこりふさせる約款の花
いほりりや美草雅の牽牛
ほらぬぬぬ霜より朝のあか
わさふぬぬ霜より朝のあか
花此色

花

長成

長成

長成

長成

日

花此色

花の上さつとつらひ花野ふ
款乃よき花此色や友成

年杓

良成

花とつらぬぬぬ霜より朝のあか

町とつうやあま紫のこは磯
は家の花や一かんと初郷
世つうとつうあま紫の世に

首也
塔谷は湯島
正屋
七三三
合次

鶺鴒花

秋風おとささきささるや鶺鴒
鶺鴒花あつら鶺鴒花や礼
ふまは秋風つけわらや鶺鴒花
あま紫の世に

枝も紫も纏さいちわが鶺鴒花

三州在尾中
窓を
後之
斤相

鶺鴒花あつら鶺鴒花

良保
味名尾

鶺鴒花あつら鶺鴒花

玄抗

ゆひまのこ籬へあつら鶺鴒花

不盈

紫と鶺鴒花あつら鶺鴒花

後取

ともく咲へあま紫の世に

不盈

秋風や吹あつら鶺鴒花

長頭花

崑山集秋之中二目錄

萩

女郎花

薄

栝棟

芭蕉

草

花柳

萩

蘭

木槿

仙翁花

芝草

大豆

秋草

崑山集卷中八

秋部

萩

秋まねと栗肉とらり萩の勢
杏風の地うたひすう萩れい
あまこし乃志けさや萩乃風心
あこふを風のよ代萩の勢
萩原の秋ふ川せの名子か

生か

萩のよきや萩吹く世の口は

ちかかたせき
威庸

秋さゆをむやうそくちり

秋
定利

萩乃ちる歌よる種の花軍

のち
宗武

文字母あふも物やせと萩は

高津勲
如貞

浪のちと浪萩や伴物揃う言

月

うけたたを萩中宿うる秋の風

長乾

秋の定着るれを萩乃く言

月

萩の風とまきん露はひや水

月

萩

手打くそ子のよわきの萩の花

露の親そそてくかゝる小露は

萩中吹くをわあふるくひんき

葉よふと深きものやとまきん

萩と文字母あふも物やせと

そくちりをむやうそくちり

萩乃ちる歌よる種の花軍

仙人をゆけん白き花の花
やちぢりて花のなや花う花
結句やうふうふまの花衣
腸花のちぢりてふうふう
あかひゆくはさきとわは小花
花のつゆあやかはん草の花う
野ううあひまら花んうう花の
名城やうこれ花系は院の由

横花の風のそしゆをるひ花

多治

見かろう川又三あけ花花花

多和

かろみそあうあう花の花中風

一明

花中あまのゆすも花花

安明

ゆきまはえ花花やこいまの花の

孝胤

花梅は腸花のあうたうひ

如見

花のふまう花とわんも腸花

香盛

そくあひ流りけてまも花花

乃保

八二五

長生寺法長

長生寺をきくまはるは花のむ

一歩

中六のま花や流経の花軍

山内

香煙

花は花やあまの家角

山内

玄櫃

花もあまの胸乃花の

長観

麻を刺そ持人の矢と花の花

月

花の向くと花の枝や花の花

月

花のまを人の枝のまの花

月

花のまを人の枝のまの花

月

花のまを人の枝のまの花

月

女郎花

男のまを人の枝のまの花

花のまを人の枝のまの花

花のまを人の枝のまの花

花のまを人の枝のまの花

花のまを人の枝のまの花

花のまを人の枝のまの花

八四

若くはるは佛とせんとしこれ
花といひ母の母を力投し書は
この家ありとも母の母即ち
男ありありし力もたすは
母の母も書いともおわく書む
母即ち花ありとも母の母
りも母もくも書は計たをに
母の母の母の母の母の母

この目つけありとてこれ
をさへりもわびし此家より
我々野やこれ道とありしは
海濱の院はあなる所母あり
わさへりもわびんせうとて
遍昭の弁の鏡のくはるは
俗いけい山家や落つとて
弁母いもわびんせうとて

季吟

定房

長昌

後次

後次

正武

保友

女郎花友の離別の行へお山
左平子 盛産

男山の有ゆり子もやうこそは
博徒 善原

やうこそおの神のみさういんは
兼心 昔昌

三後の雨風露乃とんか
望月 未得

枝も折料もやいぢやうと夜
年尾 秋政

男松風やるむくゝ縁とんは
左平 幸以

あゝの泡も似たりも扱へや
左平 貞好

五房のいぢやういぢやういぢやう
左平 貞好

恋とつらうと世物の権無郎
尾崎 好純

花籠もやあしめさたらや
秦重 好道

花さうりもやたらふらとんは
勝 直島

野色も寝いれもわたりん
兼心 宗利

身もれもやう建園もれ
兼心 政貞

三人をとりぬとみく

響ももよけい

三人やあゝの舞とんは
兼心 三流

兼心

三流

花ハ粟飯六もやんか

海州松坂田村
加友

もろそはく粟餅ちきり

乱扇
月

まを粟とじもあまを上臈

言
子孫
月

月夜を白いや肉裏上臈花

言
梅威

あま近ふ方ハ上臈をうんか

言
純

蛇の形は流りうのあま上臈花

信
政重

はぬす八喜女房のどんる

信
政信

縁ゆいけを雲眼女をこめ

廣寧

風吹を狂女とかりやんか

後原

厚風草の鬼女のあまをうんか

貞則

たよりくもるへちハ野介

元信

花の細とそくやうゆひをうんか

長頭花

あまへひくや成道女郎花

月

まのいもあまをうんか

月

あまの鬼とそくをうんか

月

花のあまをうんか

月

糸と母とく鶯そとまんぬ節は
在者の娘のきりつをさる
女郎花咲ふ野ちや門流宗
月 月 月

蘭

園乃敷も若てもあはれに盛
風舟露ち〜小紋のしらこお
雨露の母は礼儀のゆら〜
とふら〜も若葉もあはれ

あら〜も若葉もあはれ
まてさきの氣をうたえんは蘭
行杖の若ふあはれもあはれ
あはれ〜も若葉もあはれ
風舟きかふ若葉もあはれ
むら〜も若葉もあはれ
若葉もあはれ〜もあはれ
慕風〜も若葉もあはれ

枯のいぢきさんら体あはじ

季子吟

ありぬ勝せしるりとあらし

友年やうら
盛春

あらしうらまゐりし花やう

一食

とを野もやんまかして咲き

定直

庭頭すてゑてもうらぶん

紅粉登江
重直

花とふじ雨の足もや紫抱子

小別
気序

枯のてたぬきまてうらぶん

重直
昌長

よと下母嘆いづ奥の女けり

昌長

山の勝ぬぐもすそわら

成守

花乃はらみあはれんあは

梅引
成守

見まけてい紫菊母抱ふ

重直
時之

あはまふまのこらうあは

時之

ひきやふたはたかきさ

お新

あはしつりまそののひ酒らん

信元

あはしつりまそののひ酒らん

信元

目めあははくをそりん

成守

長江

雲のくもやうくもらうくも
丹波布てぬくくくくく
くくからくくくくく

日 日

芙蓉

芙蓉花とくくくくく
たふまのくくくくく

小舟

後治

薄

鳥の玉と散珠くくくく
夜をぬくくくくく
くくくくくくくく
夜をぬくくくくく
雲火とけくくく
武彦野ハくくく
笠松の志め結りくく
物かぬるくくく
前人の手と切くく

此の神を長神と云ふ也

秋を母也或は秋を母の神

概名一字ちひと云ふは

拓涼の玉すすまけけの

をの多きし腰帯もれや

あふんやうらの病神

若此秋尾花や神のつり合

思ひ草尾も神やあり心

一とていへく廣神の尾花

名前の考へ

るひ神を雨はありくをむ

長神といふ山鳥と云ふ

風吹ハ沖津と云ふ神の尾

草花と云ふ神の尾

あつを身よと云ふは

久く物をたふと云ふ

二

如

采

伊本

後

合

中

負

末

了

久

石

如

秋は中村候名

合

河川

春

言

元

素

了

久

露の玉垂は孔雀の尾花

長業

半壁有次下座を包

東の流所をりの河池色

乃為と

は高次屋敷へ事と云す
合り

唐船やうらうら江のいすぶ

長業

あこし野もてくさ子乃まじ秋

日

乃子まじ男れ名とわし此為

日

河ひまらさるめりぬを秋薄

日

わきわけの神う下らり教尾む

日

本権

花のよりと河とく井咲いし性

作野スラウ
忠久

先并く花と内方じくま外

大坂
合殿

火と水のとじりけや清志

了女寺
夕翁

栞校

花と雲の深付しるま栞校四

くさ野はきまうも花の野院

思ふも氣粗乱洒のむす系
咲かそ花の程も楮枝の部
こゝろも楮枝のりもと物氣志

紀伊池上町の
古本

大坂
浦成

揚州信丹利
浦吉

仙舟花

答むらり出るも一角仙舟花
花舟のふ款ハハもせんかうを
さし款舟よふいも延ん仙舟花
久し人わねときも仙舟花

有谷
貞利

小車舟はもくさひの仙舟花
花舟てはわめく此せんとき
敷ときけ十は百やせんとき
いから純よ家やれくく仙舟花

揚州
中か
有谷
信元

有田
不富
五重

芭蕉

寺はむつと成ハ程の老を慕ふ
とと成の花よとんけとそ
人乃らふゆくとそく

揚州
玄標

優曇花とらりる花のつぎ

花

は原花

花のふいわりつらむ落れ花

女郎花のけり目りの花

七人さうやわ志やん花の流

中よれと花のけり目りの花

花は花葉のけり目りの花

草

松茸のふいりつらむ落れ花

女を男松のけり目りの花

松とれ本の子とうじやぬ

本の子や松の葉とやう

花をそりや松のけり目りの花

雨をぬき花のけり目りの花

花を折らりつらむ落れ花

とれ花のけり目りの花

八十三

右田古くを

友

御井

花

山

花

大坂

花

言

梅

花

好

江

好

花

賢人乃乃くけわふ川多式

玉川

一升

氣葬ハ根をもむらふ者有

地

元子

喉乃乃人引中終極氣葬

佛作

良保

とんまゆのく感もつるや氣葬

江戸野馬子

正勝

氣葬此わらうと鉄人や水龍

草子

祐政

只しまつりおわ林乃日此氣葬

中井

留好

濁冬人比獄にくくも氣葬

子病

忠孝

氣葬多人きよるわいしすき

良保

賢や續乃官らと出家氣葬

大坂野馬子

正次

野氣此是者つ小指の刀く

伊丹屋

重紀

かすの山か刀くわふ本此子

津助

如貞

人様く約乃名花やまくさひ

林麻

松さけいひふふそらけくみらり

長興花

妻さけらちりめらりこそ紅雲

月

松葬や墓墓そておふ此瑞の内

月

物おさけやむいりのむらる集傘

月

肥さるも未熟此迄乃氣草 月
ちこく久の氣草一の氣草 月

大豆付刃豆

青大豆や豆腐たうこのる盛

さく豆乃実母玉露やあやさ六

細豆の風の孫さる大豆白

穂さへは秋さるりむくやあ男

園母穂さくいあれさる

さるさ

さく豆さるれあさるはるは

友谷

貞利

花野

あつらさあじいさるけは母京

風上とか入花野の海風草

花の此の野あはれはぬんはさ

ゆいあ道草さるる花野水

月と露あさるさ花野水

梅田松元

重植

ひさし好も幾子枝のしらぬ
草柳の帯や野をせれた軍

保友
曰

秋草

まろの赤きふちをまぬ秋草はた感
紅紫まろの葉をよさるかううう
すくまや風を押しむ奇れ庭
秋の此行ゆりふすま草
野を乃秋もろまかかんま

水うのつきう免く庭は秋
野とよまの露やそのまの
又はくや花よりまの
由は極うまをたやけく
秋風ぬ象戯ううの駒はるさ
みそ秋のたぬまをれひす
くらりまは露ぬたまのま
玉露のわかきまをまき

まろとあそく教のうらまを葛袴
そくたの細やまのあそくうらま

林のあそくをまろ人こや

あそくの時

林のあそくはまろかまろ

あそくも鬼のーこまろすまろ

小車あそくはあそくのあそ

あそくはあそく小車はあそ

あそくはあそくあそくあそ

あそくはあそくあそくあそ

あそくはあそくあそくあそ

あそくはあそくあそくあそ

あそくはあそくあそくあそ

あそくはあそくあそくあそ

あそくはあそくあそくあそ

あそくはあそくあそくあそ

あそくはあそくあそくあそ

あそく

英政

あそく

あそく

あそく

あそく

花母落也 結不月毛の約つるま

未得

へそくむくや志やせん此約

貞秋

枝折らる雲 離りあうはるさ

元晴

わらかひ此志やうんてい約つる此

正徳

花ちりれ此のまありゆえ約つる此

玄茂

繪よきそいさや志んせん約つる此

政後

野分るえ芝 飛なうり此すまい草

未得

うらまはれがさうせそ決まふ草

正徳

風のよと仰 逆めらるや似る草

宗成

草此えいう川 織杖り鬼此志許

貞利

飲喰ハまんちうさけのたはん式

貞秀

上野めさく志ん草やさうわん

貞下

おかきいさひやかめさそこまの標こ

貞友

種よ物くふ此のりれ利根草

長宅

花を根め地えさうりり利根

貞山

田の中めらあらわゆるそ草師

身

物火て移るも志の田は葛うん

出伏

玄母

花や那世をやり一野暮る後

治定

田母らそ茶引るもそくうとひん

物引舟

長宅

思ひのふちよとまこり

中江

永云

志のこり思ふりらまこりぬん

尾林

儀直

粒珠玉れあや水晶うくめん

蓮生寺深

一歩

たや思ゆらあまのかまれりうそ

大坂

助五

身もくそあまの志若登灘

尾崎

富房

清の道そな歴れあのかけあ

中島内務

貞宣

梅の綿や雪うそとんそせあひ

豊後七三

重礼

くらもや比まらそくろあひひ

神井

清之

海老うろめじとれがし

東京

政純

林の野とぬい針糸や草うそ

京都

政次

ふちよと塩そあかあくそれう

出雲

政辰

柿をそや伊勢のそ粒は花軍

京都

後助

お花やまねくう草乃枝らそ
掃除まぬいそぐ草むれあつ州

花列小川花
愚物
花列花田草
正春

花化つとれ省くそ

花列

とまきまひ草花枝とや花化り

花列
定房
花列
花田草

百病乃長つる程の花乃程

花田

花列の草のつと母つく

列草やあまふ道心まうれに

長観花

七くさはまより秋と花あけ

花

小車花のさきあふ風花勢

花

小車やあまひちうゆり花

花

花乃さ風母まらひ花けんあ

花

まなまやま花束花けああ

花

草とつふひつとそがうり花

花

あなれと花あは流りぬちくさ

花

よとらや花あはらうりも相撲

花

花よりまうりや花野の葛園子

花



